

## 土木工事現場と私

青木あすなろ建設株式会社  
東京土木本店工事部  
農政久保作業所

すずき ななみ  
鈴木七美



### 自己紹介

私は福島県で生まれ、神奈川県川崎市で育ちました。夏休みや年末年始は、祖父母の家がある福島県へ遊びに行き、川で水遊びや山登りや虫取り、キャンプなど、アウトドアを満喫しながら、野菜や果物の収穫など畑の手伝いもしていました。小学生からサッカーを始めて、男子サッカーに混ざってプレーし、女子サッカーチームが設立されてからは、少ない仲間と一緒にサッカーを楽しんでいました。今思えば、このころから男子の輪の中に入って、私自身一人でも行動していくことが、平気になっていたのだと思います。

自然環境へ興味を持つようになり、大学は自然環境課学科へ入りました。ここでは、自然生態系を学べる一方、農業土木のことも学べるカリキュラムになっていました。学習していくうちに、土木の資格を取得することができました。

また、アルバイト先で高速道路開通式に参加する機会があり、その際、まだ開通されていない高速道路を歩く体験をしました。どのような過程を経て道路が完成したか、どのくらいの利便性があるかなどの説明を聞き、普段当たり前に存在する道路は、様々な計画・過程があって造られていると気がきました。純粹にすごい！と感動を覚えました。以上の学生経験から、土木工事に関わってみたいと考えるようになりました。

### これまでの業務や仕事内容

入社してからは、仕事を覚えていくことに必死で、あっという間に入社五年目になりました。

初めに配属された現場は、高速道路のサーブیسエリア造成工事です。軟弱地盤改良・盛土が主な工種でした。圧密沈下・盛土における沈下管理・密度管理、調整池・排水関係や遮音壁設置などの施工管理を担当しました。竣工検査まで担当したため、工事の大まかな流れを理解することができました。

大型メガソーラーの造成現場では、変電所関係の構造物を担当しました。いくつかの基礎を同時進行で行い、他作業との調整、天気や気温を見ながら打設を行いました。構造物をつくる上での基本的な施工フロー、位置出し・スミ出し、鉄筋検査、コンクリートの品質管理、鉄筋型枠の数量など、基本的なことをこの現場で学ぶことができたと思います。

鉄道延伸によるシールド工事では、残念ながら赴任した時点で掘進が完了していたため、シールドマシン解体から担当しました。マシンの構造から後続台車の事、ガス切断・溶接作業などの危険な作業・安全面に関して、受電設備関係といった、シールド工事のノウハウを学ぶことができました。

農業用水路の改修工事では、初めて主任の立場になりました。施工はオープンピット工法と言われる、開削式シールドです。住宅地などの狭い範囲でも施工が可能な技術で、門型リフターを使用し、二次製品のり型水



出来形確認



オープンピット工法 シールドマシン前での記念写真

路を据えていく施工でした。この現場で大変なことのひとつに雨との戦いがあります。現場で雨が一時三ミリ以上降ると水路の水位が上昇し、作業が中止になるからです。今現在も工事は続いています。最後まで事故を起こさず、工事が完了するように努めていきたいです。

## 女性として活躍できるように

入社した当初、「女性目線で現場を見てどう思うか、現場を変えて欲しい」と上司に声をかけられました。まだ現場のことをよく知らない状態で、いまいちピンときていませんでしたが、現場を見る上で男性と女性で違うのだろうと疑問や違和感を持ちました。また、女性である自分は

男性よりも筋力も体力も無く、現場第一優先で動いていかなければならない仕事において、足を引っ張っているだけではないか、このまま仕事を続けて大丈夫なのかと不安に思うこともありました。

しかし、「男性に負けないように」「業務を遂行する上で、男女という観点には関係ないのではないか」という負けず嫌いな性格からくる意識が、仕事を知っていくにつれて変化してきました。

例えば、周辺住民の方々に対する工事をお知らせするための挨拶周りや、作業員の方々とのやりとり、現場環境の整備など、女性が得意とする業務があると感じています。特に挨拶周りは、男性に比べ女性の方が警戒されにくく、話を聞いてくれる方が多かったです。一方で、測量機械など重い道具を持って移動することや、

丁張を硬い地山にかける作業などは、男性の方が圧倒的に早くできると思っています。男女で役割を分担すれば、適材適所で現場がスムーズに進んでいくと感じ、女性も活躍できる仕事だと思っています。

施工管理者は、工事が円滑に進むように、日々の作業に合わせながら、安全や品質、工程などを管理し、作業ことの調整を自ら考えたり、周囲と相談したりすることで、工事が形となって出来上がっていく過程を肌で感じることができます。同時に施工管理という仕事は自分自身の成長を実感できるやりがいのあるものだと感じています。まだ男性社会のイメージが強く、今後も長く女性が工事現場に関わっていくには多くの課題がありますが、周りの上司、他現場で活躍している女性と相談しながら、女性も工事現場にいたることが当たり前になるように、私自身も努めていきたいと思えます。男性も女性も気持ちよく働ける、魅力のある工事現場になるように変わっていくことを願っています。

鈴木さんからバトンをしっかり受け取りました。次号では私のものづくりのルーツについて、地下構造物の工事に携わった経験から感じたこと、女性目線のものづくりについてお話ししたいと思います。楽しみにして下さい。

株式会社鴻池組 大阪本店土木部  
淀川左岸線工事事務所

宇治田悠璃



岐阜県のスキー場にて